

食育とコミュニケーションをテーマに日独の有識者が議論

～1月25日（木）ベルリンにおいて国際シンポジウムを実施～

国際交流基金（JF）は2024年1月25日（木）、ドイツのベルリン日独センターとの共催で、国際シンポジウム「日独対話から考える食の未来2ー食育とコミュニケーションー」を実施します。日本とドイツから食育の分野で活躍する専門家が登壇し、幅広い年代・社会的背景を持つ人が参加できる食育や、食を通じた新たな学びとコミュニケーションの実践について議論します。

日本では2005年に食育基本法が施行されて以来、心身の健康を増進する健全な食生活の実践を目的に、学校教育を中心に食育の取組が続けられてきました。食育の対象領域は幅広く、健康的な食習慣の形成から食文化の継承、農林漁業の体験や共食の推進にも及びます。またSDGsの浸透やデジタル化に対応した食育も新たに実践されています。一方、ドイツでは気候変動への関心やウクライナ危機を背景に、持続可能な食の実現が社会的に注目を集めており、オズデミル食料・農業大臣による農業政策の改革も進められています。

両国に共通するのは、社会において食が大きな関心事であり、食の学びを通じ生活習慣の悪化や環境への負荷、食品価格の高騰等、さまざまな食の課題を解決しようとする取組が行われている点です。また両国での食育は、健康な身体づくりに役立つだけでなく、農業への理解、共食を通じたコミュニティの活性化にも繋がります。

本シンポジウムでは、日本とドイツにおける食育の考え方や先進事例について共有し合うとともに、日独の専門家による対話を通じて、より良い「食」を実践するための学びやコミュニケーションの可能性について掘り下げます。



記

事業名称：ベルリン日独センター共催シンポジウム「日独対話から考える食の未来2ー食育とコミュニケーションー」

日時：2024年1月25日（木）10時～12時30分（9時30分開場）※現地（ドイツ）時間
18時～20時30分（17時30分開場）※日本時間

形式：ハイブリッド形式（対面＋オンライン配信）

会場：ベルリン日独センターホール（ドイツ・ベルリン市）

主催：国際交流基金（JF）

共催：ベルリン日独センター（JDZB）

使用言語：日本語及びドイツ語（同時通訳あり）

入場料：無料（要事前申し込み）

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：小堤、篠原）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

日本側登壇者プロフィール

【第1部 基調講演／第2部 パネルディスカッション】



上岡 美保

東京農業大学 副学長 / 国際食糧情報学部 教授

東京農業大学農学研究科農業経済学専攻博士後期課程修了。博士（農業経済学）。2016年4月より国際食糧情報学部教授、2021年4月より同大学副学長。専門は、農業経済学、食料経済学。主に食料消費構造の変化の解析、食育の効果と社会的意義、地産地消の在り方等、食と農に関する調査・研究を実施している。農林水産省食料・農業・農村政策審議会委員、内閣官房教育未来創造会議（第一次提言）構成員等を歴任。現在、農林水産省食育推進会議委員を務める。

【第2部 パネルディスカッション】



堂脇 義音

農林水産省 消費・安全局消費者行政・食育課 課長補佐

京都大学大学院法学研究科卒。我が国の未来を担うこどもたちの育成に携わりたいと考え、2017年に文部科学省に入省。入省後、デジタル教科書の法制化やDX時代に対応した著作権制度の改正、復興庁への出向等を経験。復興五輪を契機とした被災地の食材等に関する情報発信業務に従事したことをきっかけに食と農業に関心を持ち、2022年4月から半年間、食農教育に取り組むNPO法人にて研修。2023年7月から農林水産省にて食育の推進を担当。



平野 寛治

一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事

東京都出身。「地域は一つの家族」、「食を通じた地域の支え合い」を掲げ、住民参加による食を通じた助け合い活動の推進に向けて、東京都社会福祉協議会及び住民参加型助け合いサービス部会運営委員、地域福祉推進委員、「広がれ、こども食堂の輪！」実行委員会副代表・同推進会議委員として活動。加えて、社会的企業研究会の運営委員を務めるほか、一般社団法人日本応用老年学会理事、全国社会福祉協議会「広がれボランティアの輪！」構成委員等を歴任している。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：小堤、篠原）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp